

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 124人 算数 124人 理科 124人

第5学年 国語 128人 算数 128人 理科 128人

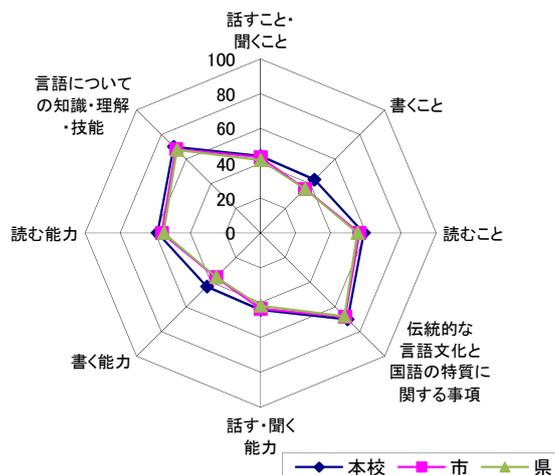
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 44.2 | 43.5 | 41.8 |
| | 書くこと | 43.4 | 35.9 | 35.8 |
| | 読むこと | 58.8 | 56.3 | 55.2 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 70.1 | 68.2 | 67.5 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 44.2 | 43.5 | 41.8 |
| | 書く能力 | 43.4 | 35.9 | 35.8 |
| | 読む能力 | 58.8 | 56.3 | 55.2 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 70.1 | 68.2 | 67.5 |



★指導の工夫と改善

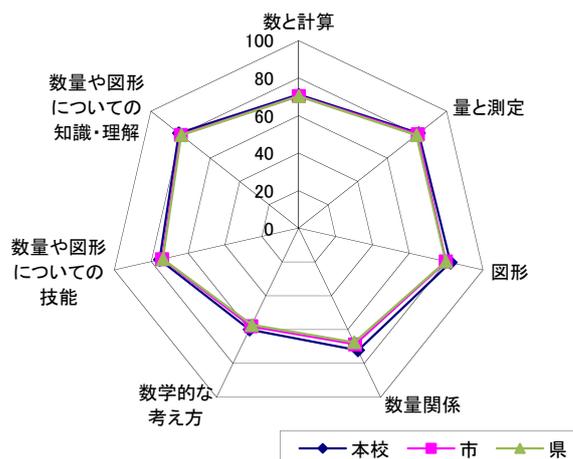
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|---|
| 話すこと・聞くこと | ○領域の平均正答率は44.2%で、県平均より2.4ポイント、市平均より0.7ポイント高い。 ●反対の意味の言葉や、話し合いにおける司会者の役割を理解し進行するような設問の理解に課題がある。 | ・朝のスピーチタイムや、各教科での発表の場で、表現力を高める機会を継続的に設ける。 ・話し合いの場において、自分の意見を分かりやすく相手に伝える工夫について指導を充実させていきたい。 |
| 書くこと | ○領域の平均正答率は43.4%で、県平均より7.6ポイント、市平均より7.5ポイント高い。 ●招待状に付け足す文章等を問う設問では、全問、県・市ともに平均を上回っているが、正答率が低く、他の人をお願いをする文章を作成する力に課題が見られる。 | ・書く力を更に育むためにも、日頃の授業ではもちろんのこと、朝の学習の時間等で、書く機会を設けていく。 ・様々な教育活動で招待状や手紙等を書く機会を設けて、それぞれの文章構成についての知識・理解を深めていきたい。 |
| 読むこと | ○領域の平均正答率は58.8%で、県平均より3.6ポイント、市平均より2.5ポイント高い。 ○文章と図を関連付けて読むこと、叙述を基に登場人物の性格などについて想像して読む設問については、県や市の平均を大きく上回り、十分に定着していると言える。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む設問では、県や市の平均を下回っており、課題が見られる。 | ・文学的な文章では、場面の移り変わりや登場人物の心情の読み取りの学習をする際に、必ず叙述に根拠を求めよう意識させることにより、読む力を高めていきたい。 ・朝の読書活動では、進んで本を準備し読書をする習慣がついているため、今後も継続していきたい。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○領域の平均正答率は70.1%で、県平均より2.6ポイント、市平均より1.9ポイント高い。 ●配当漢字「弟」の正答率が県や市の平均を下回っている。 ●配当漢字「遠足」の正答率は50%に満たない。 | ・朝の学習等で漢字の反復練習を継続的に取り入れ、定着を図る。 ・文章を書く際には、既習の漢字を意識して使うよう指導する。 |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 71.1 | 70.5 | 70.3 |
| | 量と測定 | 81.1 | 80.4 | 79.6 |
| | 図形 | 82.3 | 79.8 | 79.7 |
| | 数量関係 | 72.2 | 68.7 | 67.5 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 60.0 | 58.0 | 57.2 |
| | 数量や図形についての技能 | 75.4 | 74.1 | 73.7 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 81.1 | 79.9 | 79.5 |



★指導の工夫と改善

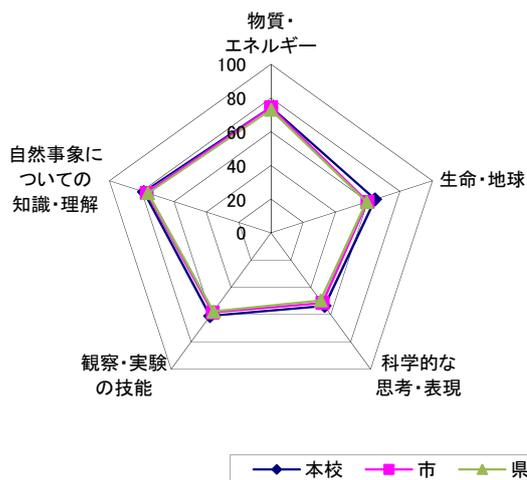
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と計算 | <p>○領域の平均正答率は71.1%で、県平均より0.8ポイント、市の平均より0.6ポイント高い。</p> <p>○たし算やひき算の設問では、それぞれ県の平均を約3ポイント上回っている。</p> <p>●数直線の目盛りを読み取り、分数で表す設問では、校内正答率が47.2%と、県・市の平均を2ポイント以上下回っている。小数で回答している児童が多く、数直線を用いて、分数の大きさを表すことに課題があると考えられる。</p> | <p>・分数は数直線を使って、数の構成と分母が理解できるように繰り返し指導し、定着を図る。また、小数や分数の意味と大きさについて、具体物や図、数直線を用いて表し、実感を伴って理解できるように指導していきたい。</p> |
| 量と測定 | <p>○領域の平均正答率は81.1%で、県平均より1.5ポイント、市の平均より0.7ポイント高い。</p> <p>○およそ1kgのものを選ぶ設問では、県平均を16ポイント上回っており、重さの学習がおおむね定着していると言える。</p> <p>●kmで表された長さをmの単位に換算する設問では、県の平均を約7ポイント、市の平均を約8ポイント下回っている。長さの単位kmについての学習の定着が十分でないと考えられる。</p> | <p>・長さの単位を使った問題は定着が不十分なところがある。1kmの長さになると、直接見て捉えることが難しくなるため、1学年からの長さの学習を基にして理解できるようにしていきたい。</p> |
| 図形 | <p>○領域の平均正答率は82.3%で、県平均より2.6ポイント、市の平均より2.5ポイント高い。</p> <p>○正三角形の作図では、県の平均より5ポイント高く、コンパスを用いて作図する力が定着していると言える。</p> <p>●円の直径を表す線分を選ぶ設問では、校内正答率が93.5%なのに対し、半径3cmのボールが縦に3つ入った筒の高さを求める設問では66.7%で、県・市の平均を約3ポイント下回っている。</p> | <p>・円の中心や半径、直径についての理解はほぼ定着していると考えられるが、球の性質についての理解が不十分だと思われる。球については、球をちょうど半分にした場合について考えたり、直方体などの立体ではさむ活動を取り入れたりして、見方や感覚を豊かにしていきたい。</p> |
| 数量関係 | <p>○領域の平均正答率は72.2%で、県平均より4.7ポイント、市の平均より3.5ポイント高い。</p> <p>○棒グラフを読み取る設問の正答率は、県や市より高く、ほぼ定着していると言える。</p> <p>●連続量の等分除の問題場面を表す線分図を完成する設問では、校内正答率が60.2%で、県の平均より3.4ポイント、市の平均より4.8ポイント低い。数量の関係を式に表したり、式と図を関連づけることについての学習に課題が見られる。</p> | <p>・何を□として立式したのか理解させるとともに、文字としての役割をもつ□についての理解が深まるように指導していきたい。</p> <p>・具体的な場面に対応させながら、図に表された数量の関係を読み取ったり、図を用いて自分の考えを説明したりすることができるように、普段から図や式、言葉を用いて課題解決する場面を設定していきたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 74.7 | 74.5 | 72.9 |
| | 生命・地球 | 64.5 | 59.8 | 59.2 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 53.7 | 51.6 | 49.7 |
| | 観察・実験の技能 | 61.0 | 58.4 | 57.7 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 78.8 | 77.0 | 76.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|---|--|
| 物質・エネルギー | <p>○領域の平均正答率は74.7%で、県平均より1.8ポイント、市平均より0.2ポイント高い。</p> <p>○電気を通すつなぎ方についての設問では、市平均より5ポイント以上高い正答率であり、実験を通して理解が定着していると考えられる。</p> <p>○豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する設問でも、市平均より5ポイント以上高い正答率であり、実験を通して電気の流れについての理解を深められたと考えられる。</p> <p>●回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方についての設問については、市平均を10ポイント以上下回る正答率となり、課題解決に付随する部分での理解に課題が見られる。</p> | <p>・実験による課題解決を行う際には、結果を得るための活動に留めず、それに伴う危険性や注意事項の確認を十分に行った上で取り組ませるようにする。</p> <p>・実験を行ったことによって分かった気付きや新たな疑問を共有して理解を深めたり学習を広げたりできるように、得られた結果とともに言葉や図で記録するよう指導する。</p> |
| 生命・地球 | <p>○領域の平均正答率は64.5%で、県平均より5.3ポイント、市平均より4.7ポイント高い。</p> <p>○「身近な自然の観察」では、県平均より8.2ポイント、市平均より6.1ポイント高く、自然に親しみ身のまわりの動植物の観察を通して理解が定着したと考えられる。</p> <p>○昆虫が卵をうむ場所と食べ物とを関係付けて考察する設問や、昆虫の体の色とすみかの記録をもとに考察する設問では、市平均で9ポイント以上高い正答率であり、実感を伴いながら理解できている。</p> <p>●日陰の位置の変化と植物の成長を関係付けて考察する設問では、市平均より5.0ポイント低い。学習した自然事象を他の事象と結び付けて考えることや、記述して回答することに課題が見られる。</p> | <p>・得られた知識、理解を活用し、横断的に思考をつなげていけるように、学習内容と実生活との関連にふれながら学習をまとめていく。</p> <p>・予想や仮説、考察を分かりやすく伝えることができるようにするために、自分の考えを具体的な図で表したり、文章で記述したりして、表現する活動を行う。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスのきまりなどを決めていると思う」や「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問に対して、肯定的な回答がいずれも市の平均を上回っている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定的な回答の割合が92.7%と高い。これは学校全体として、クラスあるいはグループでの話し合い活動を多く取り入れ、話し方・聞き方の練習をしてきた成果が表れていると考えられる。

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」という質問に対して、76%以上の児童が肯定的な回答をしており、市の平均を5ポイント上回っている。また、「授業を集中して受けている」という質問に対して、94%以上の児童が肯定的な回答をし、市の平均を4.3ポイント上回っており、児童は学習に対する意欲が高く、前向きな気持ちで取り組んでいると言える。

○「自分には、よいところがあると思う」という質問に対する肯定的な回答が85.4%と高く、市の平均を4.2ポイント上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的な回答は、市の平均より5ポイント近く高くなっている。これは、「先生は学習のことについてほめてくれる」の87.8%の肯定的な回答から、先生にほめられることにより、自信をもって学習することができ、同時に児童の自己肯定感が高まっていると考えられる。

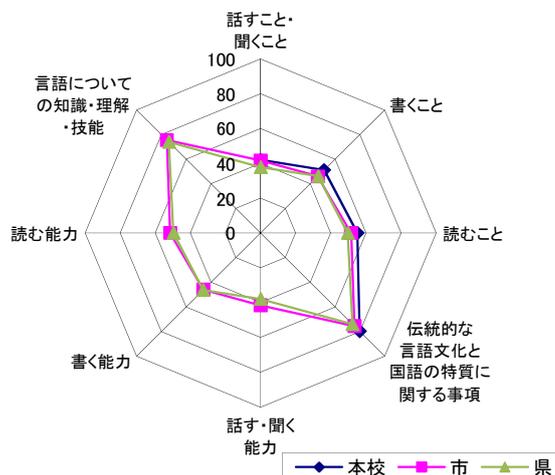
●家庭学習の内容については、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な割合が市よりも低く、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」の肯定的な回答の割合も低い。宿題はきちんとやる児童が多いので、今後は自分で考えた学習に取り組めるよう、自主学習の進め方についてアドバイスし、調べることの楽しさを味わわせていきたい。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか」という質問で、11冊以上と答えた児童が31%以上いたのに対し、0冊から2冊と答えた児童も30%以上いたので、今後も朝の読書の時間を確保し、読書のおもしろさを伝え、読書意欲を高める工夫をしていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 42.0 | 41.6 | 37.9 |
| | 書くこと | 51.2 | 46.1 | 46.3 |
| | 読むこと | 55.2 | 51.6 | 49.7 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 79.8 | 75.6 | 74.0 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 42.0 | 41.6 | 37.9 |
| | 書く能力 | 51.2 | 46.1 | 46.3 |
| | 読む能力 | 55.2 | 51.6 | 49.7 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 79.8 | 75.6 | 74.0 |



★指導の工夫と改善

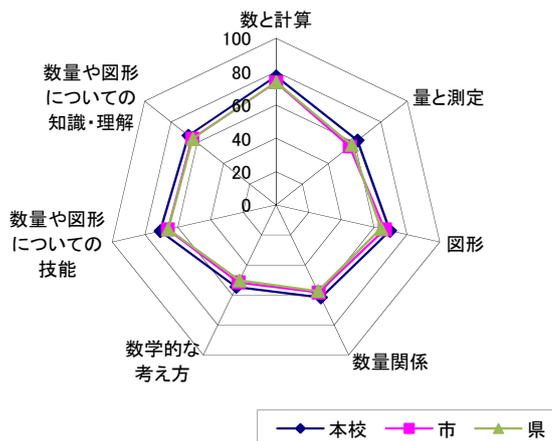
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|---|---|
| 話すこと・聞くこと | <p>○領域の平均正答率は42.0%で、県平均より4.1ポイント、市平均より0.4ポイント高い。</p> <p>○話し合いの提案者や司会者の役割についての設問の正答率は県や市より高く、ほぼ定着していると言える。</p> <p>●進行に沿った話し合いについての設問では、理由を述べるのに必要な内容が不十分な解答が目立った。話し合いの仕方についての理解に課題が見られる。</p> | <p>・自分の考えをもって話し合うことを、学校課題でも取り上げ、重点的に指導をしているところである。今後も国語だけでなく各教科等でも話し合いの活動を意図的に取り入れ、表現力の育成と定着を図りたい。</p> <p>・話し合いの学習や学級活動での話し合いなどの場面で、自分の意見や考えを支える理由を正しく述べる経験をさせ、話し合いの仕方についての理解を深めたい。</p> |
| 書くこと | <p>○領域の平均正答率は51.2%で、県平均より4.9ポイント、市平均より5.1ポイント高い。</p> <p>○必要な情報を読み取り、見出しを選択する設問や目的に応じて資料の見せ方を工夫する設問では県や市を大きく上回り、正答率はいずれも75%前後を示しているため、概ね定着していると言える。</p> <p>●資料と話し合いを基に、学級新聞に付け足す分を記述する設問では、県や市の平均をわずかながら上回ってはいるが、記述式ということもあって、正答率はわずかであった。また、無回答率も他の設問より高かった。</p> | <p>・文章を書くことへの抵抗感を少なくするためにも、各教科等の学習で、自分の考えや意見を理由を添えて書く活動を意図的に設定する。その際、文字数を制限したり、段落構成を指定したりして書かせる機会をもち、力の定着を図る。</p> |
| 読むこと | <p>○領域の平均正答率は55.2%で、県平均より5.5ポイント、市平均より3.6ポイント高い。</p> <p>○中心となる語を捉えて読んだり、登場人物の気持ちを読んだりする設問の正答率は県や市の平均よりも高い。説明的な文章や文学的な文章を読む力がおおむね定着していると言える。</p> <p>●段落相互の関係を押さえて読む設問の正答率は、県や市の平均よりわずかながら下回っている。また、同じ登場人物の気持ちを想像して読む設問でも、短答式になると正答率は大きく下がる。また、無回答率も他の設問より高かった。</p> | <p>・説明的な文章の読解においては、中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして内容を整理させる。それによって、指示語や接続語に気を付けるとともに、内容からも段落相互の関係をとらえる力の定着を図る。</p> <p>・文学的な文章では、登場人物の気持ちや場面の様子の読み取りの際に、必ず叙述に根拠を求めるよう意識させることによって、読む力の伸長を図る。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>○平均正答率は79.8%で、県平均より5.8ポイント、市平均より4.2ポイント高い。</p> <p>○前学年の配当漢字を読む設問には高い正答率を示しており、漢字を正しく読む力は十分定着していると言える。</p> <p>●漢字を書く設問の正答率は、県や市の平均をだいたい上回ってはいるものの、読みに比べてかなり低く、70%に満たないものもあった。漢字を正しく書く力の定着に課題がある。</p> | <p>・過去に学習した漢字が定着していないので、既習学年の漢字の復習を定期的実施する。文章を書く際に、既習の漢字は必ず使うことを習慣づける。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 77.2 | 73.6 | 73.7 |
| | 量と測定 | 62.0 | 56.2 | 57.7 |
| | 図形 | 69.7 | 66.5 | 64.2 |
| | 数量関係 | 61.7 | 58.4 | 57.5 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 54.6 | 51.7 | 50.3 |
| | 数量や図形についての技能 | 70.8 | 66.1 | 65.9 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 66.8 | 64.0 | 63.5 |



★指導の工夫と改善

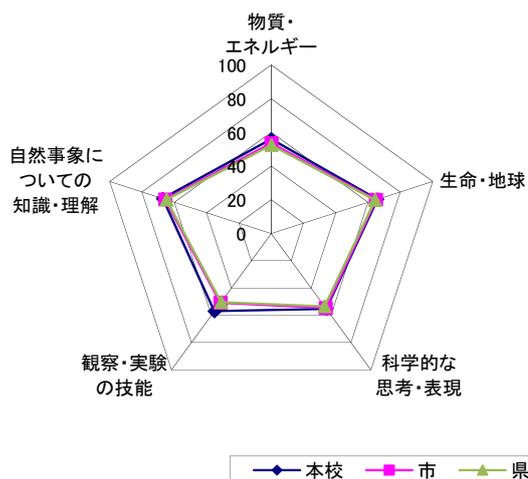
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|---|
| 数と計算 | <p>○領域の平均正答率は77.2%で、県平均より3.5ポイント、市平均より3.6ポイント高い。</p> <p>○小数(小数第1位)÷2位数の計算(割り切れるまで)の正答率は、県平均より13.9ポイント、市平均より13.4ポイント高い。</p> <p>●3位数÷2位数=2位数(商に空位、余りあり)の計算では、県・市の平均を下回っており、校内正答率が70%に届いていない。正確に位を取ることに課題があると考えられる。</p> | <p>・商に0が立つことがあること、空位の0が出た場合のひく、下ろすの作業を確認する。空位が出る場合に商の位をつめないなど、正確に位を取っていくことを指導していきたい。</p> |
| 量と測定 | <p>○領域の平均正答率は62.0%で、県平均より4.3ポイント、市平均より5.8ポイント高い。</p> <p>○正方形の面積を求める問題、および図で示された角度の大きさの範囲を選ぶ問題では、県・市の平均をおよそ10ポイント上回っている。</p> <p>●およその面積を推測する設問では、校内正答率が48.8%と、県・市の平均を6ポイント以上下回っている。それぞれの単位が表す大きさのイメージを明確に持っていないと言える。</p> | <p>・面積などの量の大きさは、単位が大きくなった時の量感を、実際の大きさを視覚的に確認しながら指導していきたい。</p> |
| 図形 | <p>○領域の平均正答率は69.7%で、県平均より5.5ポイント、市平均より3.2ポイント高い。</p> <p>○残りの1面を加えて、立方体の展開図を完成させる設問では、校内正答率が93.7%と高い値を示しており、概ね定着していると考えられる。</p> <p>●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を問う問題では、校内正答率が33.1%で、市の平均を1.9ポイント下回る値となった。四角形の性質の定着が十分でないと考えられる。</p> | <p>・四角形の性質を使った問題はやや定着が不十分なところがある。四角形の性質はいくつかあるために、内容を混同していると考えられる。図形ごとに整理して視覚的な資料も活用しながら指導していきたい。</p> |
| 数量関係 | <p>○領域の平均正答率は61.7%で、県平均より4.2ポイント、市平均より3.3ポイント高い。</p> <p>●表や図から、伴って変わる二つの数量の関係を読み取る設問では、表に当てはまる数を求めることは94.5%とほぼできるのに対し、数量の関係を式に表すことについては、63.8%と低い値を示している。数量を表やグラフに表せても、そこから二数の変化を読み取り、式に表現することは定着していないと言える。</p> | <p>・表から数量の変化をとらえて式に表すことについて、2つの数の対応関係や規則性に注目させながらとらえられるようにしていきたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 56.0 | 53.7 | 52.5 |
| | 生命・地球 | 65.7 | 64.9 | 64.3 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 55.2 | 54.7 | 53.4 |
| | 観察・実験の技能 | 57.0 | 50.8 | 50.3 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 67.2 | 65.7 | 64.9 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|--|
| 物質・エネルギー | <p>○領域の平均正答率は、56.0%で、県平均より2.3ポイント、市平均より3.5ポイント高い。</p> <p>○「金属、水、空気と温度」の設問では、市・県の正答率より3~4ポイント上回っている。しかしながら、全体的に正答率が低いことから、基礎・基本の定着が不十分と言える。</p> <p>○「電気の働き」についての設問では、市・県の正答率より0.6~2.6ポイント高い。回路を作って電流を流す問題の正答率が高いことから、学習内容が定着しているといえる。</p> <p>●「空気と水の性質」の設問では、市・県の正答率より0.3~1ポイント下回っている。</p> <p>●「地球・生命」の分野と比較すると、9.7ポイントと大幅に下回っている。</p> <p>●ものの性質についての理解はほぼおおむね定着しているといえるが、日常生活の事象と関連付けて考える力が弱い傾向にある。</p> | <p>・「生命・地球」の分野と比べて、大幅に正答率が低い。おそらく、苦手意識をもっていたり、興味関心の低い児童が多いことが予想されるため、導入時や単元を通して、学習内容を日常生活に結び付けながら学習を進めていくことを重視していく。</p> <p>・実験を伴う学習では、予想、実験、結果、考察の過程を経て、科学的な物の見方を高めていけるようにする。</p> <p>・前学年での既習事項について適宜復習を行うとともに、単元を通じた系統的な学習を充実させることで基礎的な学習内容の習熟を図る。</p> |
| 生命・地球 | <p>○領域の平均正答率は、65.7%で、県平均より1.4ポイント高く、市平均とほぼ同じ結果となった。</p> <p>○「季節と生物」の問題では、県・市の平均を共に4.1ポイント上回っている。生き物の性質の基礎的な学習内容が定着していると言える。</p> <p>○「天気の様子」の気温の測り方の問題では、市平均とほぼ同等の70.5%であった。天気と気温を関連させて解答する問題の正答率が高いため、学習内容が定着していると言える。</p> <p>●「人の体のつくりと運動」では、43.3%と県平均を11.0ポイント、市平均を11.2ポイント大幅に下回る低い値を示している。</p> <p>●「月と星」の問題の正答率は、65.5%と、県・市の平均を4ポイントほど上回ったが、他の項目と比較すると正答率が大幅に低い。</p> | <p>・自然環境豊かな地域性を生かし、身の回りの自然に目を向けたり、その変化を感じ、捉えたりする機会を他教科と関連させながら設け、自然事象への興味関心をさらに高めていく。</p> <p>・「人の体のつくりと運動」では、毎日動かしている体の筋肉について、体育の授業の中で問いかけたり、模型や視覚教材を活用したりして、具体的なイメージをつかみ、学習内容の定着を図れるようにする。</p> <p>・「月と星」の学習では、季節ごとに折に触れて夜空の観察の機会を話題に挙げて促し、形や位置の変化を実際を目で見られるように支援していく。</p> |
| | | |

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」などの家庭学習に関する質問において、肯定的な回答が市の平均を大きく上回っている。今後も自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、自主的に取り組んでいる児童の例を紹介したりしてさらに家庭での学習意欲を高めていきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていと思う」という質問に対して、肯定的な回答がいずれも市の平均を上回っている。今後も友達と対話を通して課題を解決していく活動を積み重ねていき、児童のコミュニケーション力の向上や対話によって得られる学びの深まりを感じさせていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問に対する肯定的な回答は、89%で市の平均より7ポイント高い。また「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」という質問に対する肯定的な回答は、86%で市の平均を14ポイント上回っている。今後も先生に質問がしやすい雰囲気作りを続けていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」や「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問に対して、肯定的回答が市の平均をどちらも下回っている。周りから与えられた課題に対しては熱心に追究していく姿勢が見られるようになってきたが、自分から積極的に情報を得て、地域や社会のできごとを自分のこととして捉えるところまでは至っていない。社会科の授業を中心とした問題解決的な学習や普段からの教師の声かけなどを継続し、将来、児童が社会に進んで参画していく姿勢の素地を養っていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか(携帯電話やスマートフォンも含む)」や「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」という質問において、2時間以上と答えた児童の割合が少なくない。また、「見てはいけなサイトにつながらないようになっていますか」の問いに対しては「いいえ」、「分からない」と答えた児童が50%以上となっている。これらのことから、現時点においても児童が携帯電話やスマートフォンを様々な場面で使用しており、さらに自分の端末のネット環境を把握していないまま使用していることが分かる。携帯電話やスマートフォン、そしてインターネットの基礎的な活用法を指導したり、それらのメリットやデメリットの両面を理解させるような情報モラルの授業を実施したりし、児童が安全に情報機器を活用していけるようにしたい。